

二〇一七年十月二十八日

担当 京都大学院博士課程一回生 劉 青

〔原文〕

是古上聖之君¹預知此、故努力為善。愚人不深計、故生亦有譴謫於天²、死亦有譴謫於地、可不駭哉。速傳吾書、使天下之人得行之、俱思其身定、精念³合於大道、且自知過所從來、即承負之責⁴除矣。天地大喜、復返上古⁵而倍矣。

天、一也、反行地²、其意何也？今地、二、反行人³、何也⁶？夫地為天使、人為地使⁷。故天悅喜、即使今地上萬物大喜悅⁸。「天不悅喜」地雖養物也、「使其物惡」。「地」善、（即民居善）「則居地上者人民好善」。此其相使明效也。

〔校勘〕

『太平經』合校本 卷四十を用いて比較した。

是古上聖之君預知此…合校本作 是故太古上聖之君迺知此

故努力為善…合校本作 故努力也

故生亦有譴謫於天、死亦有譴謫於地…合校本作 故生亦有謫於天、死亦有謫於地

可不駭哉…合校本作 可駭哉

速傳吾書、使天下之人得行之…合校本作 但急傳吾書書、使天下人得行之

且自知過所從來…合校本作 且自知過失所從來也

復返上古而倍矣…合校本作 年復得返上古而倍矣

天、一也…合校本作 今天、一也

今地、二…合校本作 今地、二也

即使今地上萬物大喜悅…合校本作 則使今年地上萬物大善

地雖養物也、善即民居善、此其相使明效也…合校本作 天不喜悅、地雖欲養也、使其物惡。

地善、則居地上者人民好善、此其相使明效也。今譯文從合校本。

〔書き下し文〕

是れ古の上聖の君預め此れを知り、故に努力して善と為す。愚人深く計らず、故に生くるも亦天に譴謫あり、死するも亦地に譴謫あり、駭かざるべけんや。速く吾が書を傳え、天下の人をして之を行うを得しめ、俱にその身の定めを思い、精念を大道に合し、且つ自ら過り

従りて来る所を知らば、即ち承負の責除かるなり。天地の大喜、復た上古に返りて倍す。天は一なり、反つて地二を行う、其の意何ぞや。今地は二なり、反つて人三を行うは、何ぞや。夫れ地は天の使いと為り、人は地の使いと為る。故に天悦喜せば、即ち今地上の萬物をして大いに喜悅せしむ。「天悦喜せざれば」地物を養うと雖も、「其の物をして悪ならしむ。」「地」善ければ、「則ち地上に居る者人民は善を好む」。此れ其の相い使うるは明効となる。

〔訳文〕

古代の上聖の君主は前もってこれを理解していたので、努力して善を行った。愚人は深く理解していないので、生きている時も、天から罪を責められ、死んだ後も地から罪を責められる。驚くべきことではないか。速く私の書を伝え、天下の人々にそれを実践させ、一緒にその身の安定を思い、精念を大道に合わせ、その上で自分で過ちの由来する所を分かれば、それで承負の責を取り除くことができる。(そうならば)天地が大きな喜びし、もう一度上古時代に戻り、喜びが倍となるのである。

天は一であるが、反つて地の二を働かせる。それは何を意味するのか。今、地は二であるが、反つて人の三を働かせるのは、何故だろうか。(それは)地は天の使いであり、人は地の使いであるからである。だから、天が喜べば、今の地上の萬物を大いに喜ばせることができる。「天が喜ばなければ」地は萬物を養おうとしても、「萬物は繁栄できない」。「地は」善であれば、「その土地に住んでいる人々が善を好む」。(天地人が)お互いに使いとなることの明らかなるしである。

〔注釈〕

1 上聖之君

『墨子』公孟 (四部業刊三冊九十二葉表) 「昔者、聖王之列也…上聖立為天子、其次立為卿大夫。」

2 故生亦有譴謫於天

『春秋繁露』必仁且知 (四部業刊一冊卷八十三葉裏) 「其大略之類、天地之物有不常之變者、謂之異、小者謂之災。災常先至而異乃隨之。災者、天之譴也。異者、天之威也。」

3 精念

『太平經』卷四十五 起土出書訣第六十一 (合校本 112)

今天師乃與皇天后土常合精念、其心與天地意深相得

『太平經』卷四十六 道無價卻夷狄法第六十二 (合校本 129)

吾書即天心也意也、子復深精念之。

4 承負之責

『太平經』卷三十九 解師策書訣第五十（合校本 70）「承者為前、負者為後。承者、迺謂先人本承天心而行、小小失之、不自知、用日積久、相聚為多、今後生人反無辜蒙其過謫、連傳被其災、故前為承、後為負也。負者、流災亦不由一人之治、比連不平、前後更相負、故名之為負。負者、迺先人負於後生者也」

『太平經』卷三十七 五事解承負法第四十八（合校本 60）欲解承負之責、莫如守一。守一久、天將憐之。

5 反上古

『黃帝內經 素問』上古天真論篇第一（人民衛生出版社 1963 標點本 1 葉） 余問上古之人、春秋皆度百歲、而動作不衰。今時之人、年半百而動作皆衰者、時世異耶？

6 天、一也、反行地二、其意何也？今地、二、反行人三、

『老子』第四十二章（四部業刊 三十一葉裏） 道生一、一生二、二生三、三生萬物。

『太平經』卷七十三至八十五 闕題（合校本 305）元氣恍惚自然、共凝成一、名為天也。分而生陰而成地、名為二也。因為上天下地、陰陽相合施生人、名為三也。

『太平經』卷五十三 分別四治法第七十九（合校本 198）欲樂第一者宜象天、欲樂第二者宜象地、欲樂第三者宜象人、欲樂第四者宜象萬物。

7 地為天使、人為地使

『老子』第二十五章（四部業刊 十三葉表） 人法地、地法天、天法道、道法自然。

8 故天悅喜、即使今地上萬物大喜悅

『春秋繁露』立元神（四部業刊一冊 卷六 七葉表） 天地人、萬物之本也。天生之、地養之、人成之。天生之以孝悌、地養之以衣食、人成之以禮樂、三者相為手足、合以成禮、不可一無也。

『周易』頤（阮元本十三經注疏 二十七葉表） 天地養萬物、聖人養賢以及萬民。

9 明效

『漢書』匈奴傳下（中華書局標點本 3831） 此則和親無益、已然之明效也

〔原文〕

夫治亂¹⁰者、猶太多端¹¹、不得天之心、當反還其根本。夫人言太多、亦致亂。若本根、何患哉¹²？

故一言而成者、本「文」也¹³。再言而止者、成章句¹⁴也。三言而止、反成解難¹⁵也。將遠真、故有解難也。四言而止、反成文辭¹⁶也。五言而止、反成偽也。六言而止、反成敗也。七言而止、反成破¹⁷也。八言而止、反成離散。遠道遠復遠也。九言而止、反成大亂。十言而止、反成滅毀。故終至十而改、更相傳而敗也¹⁸。夫凡事毀者當反本¹⁹。故反守一以為元首²⁰。是故數起於一、終於十²¹。自然治亂之數也²²。

〔校勘〕

夫治亂者、猶太多端 …… 合校本作 故治亂者、由太多端
當反還其根本 …… 合校本作 當還反其本根

夫人言太多、亦致亂。若本根、何患哉？ …… 合校本作夫人言太多、而不見是者、當還反其本要也、迺其言事可立也。

故一言而成者、本也 …… 合校本作 故一言而成者、其本文也。今譯文從合校本。

再言而止者、成章句也 …… 合校本作 再轉言而止者、迺成章句也

三言而止 …… 合校本作 故三言而止

六言而止、反成敗也 …… 合校本作 六言而止、反成欺也

反成大亂 …… 合校本作 反成大亂也

反成滅毀 …… 合校本作 反成滅毀也

故終至十而改、更相傳而敗也 …… 合校本作 故經至十而改、更相傳而敗毀也

故反守一以為元首 …… 合校本作 故反守一以為元初

是故數起於一、終於十、自然治亂之數也 …… 合校本作 是故天數起於一、十而終也、是天道自然之性也。

〔書き下し文〕

それ治乱とは、猶おただ多端なり、天の心を得ざれば、當にその根本に反還すべし。それ人の言ただ多し、また乱を致す。若し本根なれば、何ぞをか患えらんや。

故より一言にして成る者、本「文」なり。再言にして止まる者、章句となる。三言にして止まれば、反つて解難となる。將に真に遠ざからんとす、故に解難なり。四言にして止まれば、反つて文辭となる。五言にして止まれば、反つて偽りとなる。六言にして止まれば、反つて敗となる。七言にして止まれば、反つて破れとなる。八言にして止まれば、反つて離散となる。遠道にして遠し復た遠し。九言にして止まれば、反つて大乱となる、十言にして止まれば、反つて滅毀となる。故に終に十に至りて改め、更に相傳して敗るるなり。夫れ凡事の毀れる者は、當に本に反すべし。故に守一に反し以て元首と為す。是の故に数は一に起り、十に終わる。自然の治乱の數なり。

〔訳文〕

治乱の時、やはり甚だ多様な原因があるが、天の心を得ていないならば、その根本に戻らなければならぬ。人々の言説は甚だ多様であるが、それもまた乱を招く。もし根本（に戻れば）、なんの心配があろうか。

そもそも（言説において）一言で完成するものは、経文の本文である。再び言い伝えて終わるものは、経典解釈のための章句になる。三回言い伝えて終わるものは、反って困難なことを弁明するものになる。真実から離れていくため、難しい部分の解説が現れた。四回言い伝えて終わるのは、反って本文に付け加えて飾り立てる言葉になる。五回言い伝えて終わるものは、反って偽りになる。六回言い伝えて終わるものは、反って失敗した文になる。七回言い伝えて終わるものは、反って不完全なものになる。八回言い伝えて終わるものは、反って離散となる。道から離れてますます遠くなる。九回言い伝えて終わるものは、反って大きな混乱となる。十回言い伝えて終わるものは、反って本来の意味は毀滅してしまう。このようなわけで、最後には十伝で終わると、改めて最初から繰り返して敗滅になる。そもそも凡事において失敗があれば、根本にもどるべきである。この故に守一に戻って元首の状態を回復するのである。だから、数は一から始まり、十で終わるのである。これは自然の治乱の道理である。

〔注釈〕

10 治亂

『禮記』中庸（阮元本十三經注疏 二十一頁裏） 繼絕世、舉廢國、治亂持危、朝聘以時、厚往而薄來、所以懷諸侯也。

11 多端

『楚辭』九辯（四部業刊 四冊十四葉表） 何況一國之事兮、亦多端而膠加。

12 當反還其根本。夫人言太多、亦致亂。若本根、何患哉？

『莊子』外篇 知北游（四部業刊 四冊四十四葉裏） 惛然若亡而存、油然不形而神、萬物畜而不知。此之謂本根、可以觀於天矣。

『太平經』卷九十六 守一入室知神戒第一百五十二（合校本 416） 夫正文正辭、乃為天地人萬物之正本根也。是故上古大聖賢案正文正辭而行者、天地為其正、三光為其正、四時五行乃為其正、人民凡物為其正。

『太平經鈔』乙部卷二天地开辟貴本根、乃氣之元也。欲致太平、念本根也。不思其根名大煩、舉事不得、災并來也。

13 故一言而成者、本也……

『太平經』卷五十一 校文邪正法第七十八（合校本 190）正文者、迺本天地心、守理元氣。古者聖書時出、考正元字、道轉相因、微言解、皆元氣要也。再轉者、密辭也。三轉成章句也。四轉成浮華。五轉者、分別異意、各司其忤。六轉者、成相斯文。章句者、尚小儀其本也、過此下者、大病也。

『道教義樞』（正統道藏太平部）卷二十二部義第七「言本文者、即三元八會之書。……紫微夫人云、三元八會之書、太極高真所有 本者、始也、根也 是經教之始、文字之根。又為得理之元、萬法之本 文者、分也、理也」

14 章句

『論衡』程材（四部業刊 四冊卷十二三葉裏）是以世俗學問者、不肯竟經明學、深知古今、急欲成一家章句。

15 解難

『漢書』揚雄傳下（中華書局標點本 3575）玄文多、故不著。觀之者難知、學之者難成。客有難玄大深、眾人之不好也、雄解之、號曰解難。

16 文辭

『淮南子』人間訓（四部業刊 四冊卷十八 二十葉裏）故繁稱文辭、無益於說、審其所由而已矣。

17 破

『大戴禮記』小辯（四部業刊 二冊卷十一 一葉裏）辨而不小。夫小辨破言、小言破義、小義破道。

18 故終至十而改、更相傳而敗也

『太平經』卷三十七 五事解承負法第四十八（合校本 58）

今一師說、教十弟子、其師說邪不實、十弟子復行各為十人說、已百人偽說矣。百人復行各為十人說、已千人邪說矣。千人各教十人、萬人邪說矣。萬人四面俱言、天下邪說。又言者大眾、多傳相徵、不可反也、因以為常說。

19 夫凡事毀者當反本

『禮記』禮器（阮元本十三經註疏 五葉表） 禮也者、反本修古、不忘其初者也。

20 故反守一以為元首

『太平經』卷三十七 五事解承負法第四十八（合校本 60）一者、數之始也。一者、生之道也。

一者、元氣所起也。一者、天之綱紀也。故思守一、徒上更下也。夫萬物凡事過於大、未不反本者、殊迷不解、故更反本也。

21 數起於一、終於十

『周易』系辭上（阮元本十三經注疏 二十六葉裏） 天一、地二。天三、地四。天五、地六。

天七、地八。天九、地十。王弼注：易以極數通神明之德、故明易之道、先舉天地之數也。

『國語』周語上（四部業刊 一冊周語上第一 十二葉表）若國亡不過十年、數之紀也。夫天之所棄、不過其紀。韋昭注：數起於一、終於十、十則更、故曰紀也。

『太平經』卷九十三 國不可勝數訣第一百三十九（合校本 390） 天數起於一、終於十、而相乘天道。

22 自然之數

『列子』卷四（四部業刊 卷四 五葉裏） 心將迷者先辯是非。張湛注：窮上反下、極盛必

衰、自然之數。